

今年度の取り組みについて

(1) 研究の組織

- ・ 6分科会構成(低・中・高・専・特支・ことば)とする。

(2) 研究の内容

- ・ 年間を通して、テーマ追究型(導入と展開後段の発問を同じものにする)の発問構成で校内研究を深める。
- ・ 「特別の教科 道徳」の指導書解説を基に、指導観が明確な指導案を作成できるようにする。
- ・ 年度当初にアンケート実施(道徳授業に対する関心など)を行い、児童の変容を把握する。
- ・ 全学年が研究授業を行う。研究授業では、①事前授業または(②事後授業)、③研究授業で全員が授業を公開する。(事前、事後の授業は、できるだけ月曜5校時に行う)。
- ・ 研究授業は、「定番教材」で授業を行う。年度当初に研究推進委員会で、教材の選定や調整を行う。内容項目(A,B,C,D)に偏りが出ないようにする。
- ・ 専科・特支は、年間1回全員が授業公開を行い、ことばは紙上発表を行う。
- ・ 年間35回の道徳授業を実施するため、第□回道徳を板書に掲示する(年度末に回収)。週案には「□/35」と記載する。
- ・ 全学年共通の道徳ファイルを活用し、評価に生かす(卒業時まで使用)。
- ・ 研究紀要を作成する。(指導案+指導の実際(写真)+成果・課題など)⇒形式、余白、フォント等は第1回研究授業に統一する。

各学年の成果と課題

第1学年

(1) 成果

- ・ 自分の考えを書くことができない児童に配慮し、ペア活動ではなく、グループ活動にしたことで、全員が意見をもつことができた。
- ・ 場面を区切りながら朗読したこと話をしっかりとおさえることができた。
- ・ 教科書の挿絵にはない汚れたベンチを視覚的に提示したことで、より場面の様子を想像することができ、効果的だった。
- ・ 授業後には学校生活の中で、みんなで使っている本棚やロッカーを綺麗に使う習慣が身に付いた。

(2) 課題

- ・ 導入の写真提示が円滑にいかなかったため、事前に確認しておくよかった。
- ・ 板書計画通りに行かず、左側に寄ってしまったため、黒板に印をつけるとよかった。
- ・ 研究授業時は、展開後段で学校外について考えたため話が広がらなかった。事後授業の際には、学校内のことに絞ったため、話し合いを円滑に進めることができた。

第2学年

(1) 成果

- ・ 事前アンケートをとったことで児童の実態把握を行い、身近な事例を使って児童に考えさせることができた。
- ・ 身近な事例を使って考えさせたことにより、児童が正しい行動を取ることのよさについて考えを深めることができた。
- ・ 展開前段と展開後段の両方で正しい行動を取ると自他ともに気持ちよく過ごせることを考えさせたことで、児童がすすんで正しい行動を取ろうとする意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・ テーマと発問がつながっていなかった部分があり、ねらいと発問、評価の筋道を明確にする必要があった。
- ・ 教材文の展開が先に分かっていたため、登場人物が葛藤する場面を深めることができなかった。
- ・ 教師と子供の一問一答方式が多くなってしまい、児童が主体的に考える場が多くもてなかった。多様な考えを共有させたり、考えを深めさせたりする場面では、グループでの話し合いや役割演技等、効果的と考えられる手立てを取るべきであった。
- ・ 展開後段で、自分のことについて見つめ直したり、自分だったらどうするかを考えたりする時間を十分に取れなかった。授業の中で十分に時間をかける部分とそうでない部分とを模擬授業を通してもっと精査できるとよかった。
- ・ 登場人物の言動を比較して考える時に、内容理解を深めさせるために板書を縦向き(横書き)で書いた方が見やすく効果的だった。

第3学年

(1) 成果

- ・ 事前にアンケートをとることで、導入のつかみができた。
- ・ 場面を区切りながら朗読し、パワーポイントを活用することで話をしっかりとおさえることができた。
- ・ 学級目標と関連付けることで日頃から意識でき、思いやりの輪カードとして授業後も残すことができた。
- ・ 思いやりの手を視覚的に提示したことは効果的だった。

(2) 課題

- ・ 展開前段と展開後段で区切りができてしまったため、話を切らずに発問をする必要がある。
- ・ 思いやりの輪カードは、授業内だと経験になってしまったため、学習後時間において実施すると効果的であったと考える。

詳細

詳細

第4学年

(1) 成果

- ・夏休み中に生活記録を取ったことで、児童が、自分自身の生活を振り返り、生活習慣の大切さに気づき、節度・節制を行うことが大事であると気付いた。
- ・教材提示で、自分の欲望を車のアクセルとブレーキとして可視化することで、ブレーキの大切さに気付くことができた。
- ・事前授業を通し、展開後段の主発問を「生活習慣の良さ」ではなく、「生活習慣の大切さ」にすることで、多面的・多角的に捉えることができた。
- ・生活習慣は大切だと理解した上で、節制することの難しさに気づき、自分自身の課題を発見し、改善するための目標を立てて、実行することができた。

(2) 課題

- ・事後に子供たちの意欲を継続させて、学級活動で月ごとに振り返りを行うのが大変であったため、ワークシートの他に良い手段がないか検討する必要がある。
- ・自分の生活について友達と交流することが難しかった。話し合い活動を取り入れる場面をより検討する必要がある。

第5学年

(1) 成果

- ・導入と最後の発問を同じテーマで行うことで、児童の変容が見取りやすかった。
- ・前時に見た目やイメージで、他人のことを判断してしまっていることに気付かせたことは有効であった。
- ・児童の意見で対立している者同士を、視覚的に分かりやすくしたことで、自身の意見を再構築しやすくなった。

(2) 課題

- ・「差別」と「区別」は違うことを指導する必要がある。
- ・事前に教材の歴史的な部分を知識として持たせておくことよい。
- ・教材の内容を理解し易いように、教材提示の方法を工夫する必要がある。

第6学年

(1) 成果

- ・理解や考えが深まるように、発問が工夫されていた。
- ・導入と最後の発問を同じテーマで行うことで、児童の変容が見取りやすかった。
- ・事前授業を行う単元構成にしたことで、時代背景や人物像を理解でき、本時のねらいに迫りやすかった。
- ・teams を使って意見交流をすることで、自分の考えと他者の意見を比較しながら、自分の考えをまとめる手助けになっていた。

(2) 課題

- ・中心発問では、自分だったら？ではなく千駄の気持ちを考えさせた方が、意見の偏りが少なかった。
- ・生きるために大切なことは何か。を数値化することで視覚的に示してもよかった。
- ・自分の考えを書くだけでなく、似ている考えを探したり、保護者から意見をいただいたりする方法をしてみる構成にしてみてもよい。
- ・教材文を読むことを途中でやめて、考えさせる時間をあえてつくってもよかったのではないかな。評価の仕方を考えていく必要がある。

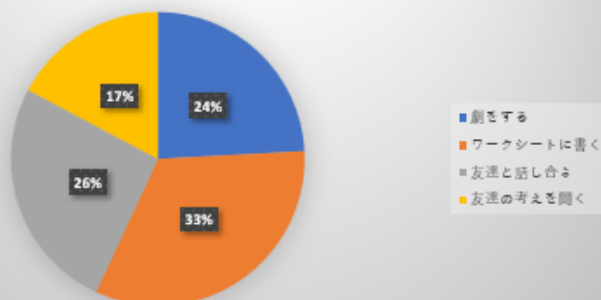
道徳の授業に関するアンケート

(第1回7月、第2回2月実施)

登場人物の気持ちを考える手立てについて (7月)

	劇をする	ワークシートに書く	友達と話し合う	友達の考えを聞く
2 登場する人の気持ちをどのように考えるのが好きですか。	115	156	123	82

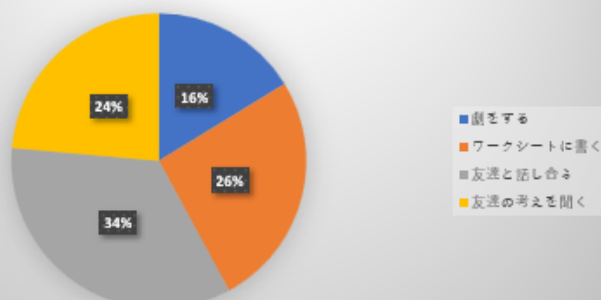
2 登場する人の気持ちをどのように考えるのが好きですか。



登場人物の気持ちを考える手立てについて (2月)

	劇をする	ワークシートに書く	友達と話し合う	友達の考えを聞く
2 登場する人の気持ちをどのように考えるのが好きですか。	102	162	215	148

2 登場する人の気持ちをどのように考えるのが好きですか。



分析結果

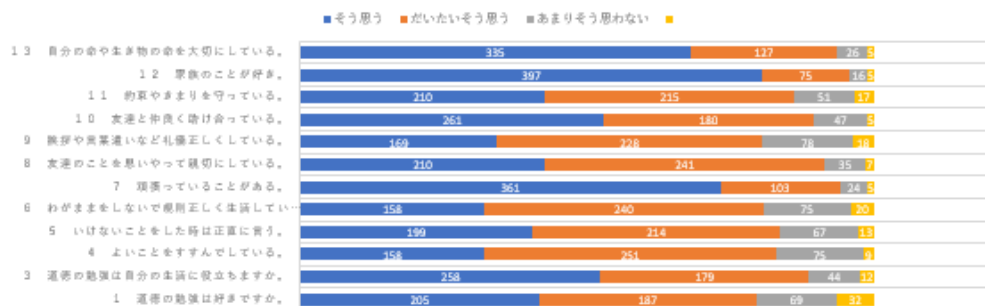
回答数が増えたことから、登場人物の気持ちを考える際に様々な学習方法で考えることが児童にとって有効的であることが分かった。特に「友達と話し合う」、「友達の考えを聞く」の項目の割合が増えたことから、自分なりに考えを深めたり、友達の意見を聞いたりして学ぶことができたと考えられる。

詳細

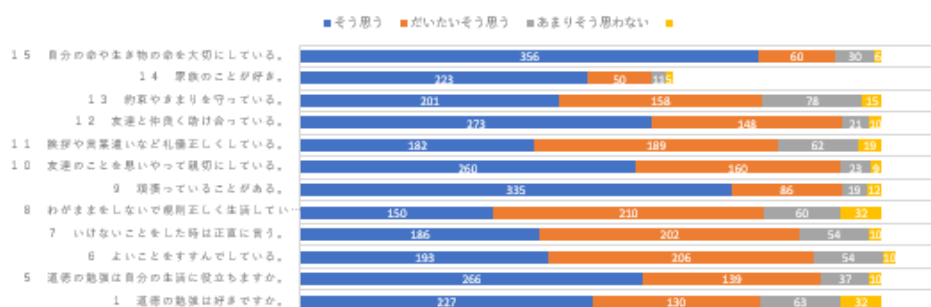
児童の道徳性に関するアンケート調査

(第1回7月、第2回2月実施)

7月 学校全体



2月 学校全体



詳細

	7月	2月	増減
13、自分の命や生き物の命を大切にしている。	93.70%	92.00%	1.7%減
12、家族のことが好き。	95.70%	94.40%	1.3%減
11、約束やきまりを守っている。	86.20%	81.90%	4.3%減
10、友達と仲良く助け合っている。	89.40%	93.10%	3.7%増
9、挨拶や言葉遣いなど礼儀正しくしている。	80.50%	82.00%	1.5%増
8、友達のことを思いやって親切にしている。	91.40%	92.90%	1.5%増
7、頑張っていることがある。	94.10%	93.10%	1.0%減
6、わがままをしないで規則正しく生活している。	80.70%	79.60%	1.1%減
5、いけないことをした時は正直に言う。	83.70%	85.80%	2.1%増
4、よいことをすすんでしている。	82.90%	86.10%	3.2%増
3、道徳の勉強は自分の生活に役立ちますか。	88.60%	89.60%	1.0%増
1、道徳の勉強は好きですか。	79.50%	78.90%	0.6%減

百分率は小数第二位以降切り捨て 7月-2月13.00%増、10.00%減、総計3.0%増

アンケート結果からの分析

「8、友達のことを思いやって親切にしている。」「10、友達と仲良く助け合っている」については、肯定的な回答をした児童が増えた。人権週間での指導や三小ピンクシャツデーの呼び掛けなどで友達との関わり方を意識するようになり、更に道徳科の学習を通じて意識が深まったと考えられる。

「4、よいことをすすんでしている。」について、肯定的な回答をした児童が3.2%増加した。

「11、約束やきまりを守っている。」については肯定的な回答をした児童が4.3%減少したことから、日常の生活指導に加えて、きまりを守ることの大切さやよさについて考えさせたり、粘り強く指導したりしていく。